

平成24年【第2回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を四半期に1回(3カ月に1回)実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

被災した12市町村に居住又は就労している方153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

平成24年5月(次回調査は平成24年8月)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(生活の回復度、3ヵ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度、3ヵ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、3ヵ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 92.2%(141名/153名) <前回 94.8%(平成24年2月)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	96	68.1%
女性	45	31.9%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	47	33.3%
沿岸南部	94	66.7%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	32	22.7%
40歳代	45	31.9%
50歳代	42	29.8%
60歳以上	22	15.6%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

市町村別	人数	割合
被災あり	74	52.5%
被害なし	63	44.7%
不明	4	2.8%

⑤ 職業・所属等

- ・地域団体・郵便局関連(仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者)
56名(39.7%)
- ・教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者)
41名(29.1%)
- ・産業・経済・雇用関連(漁業、農業の従事者/雇用支援機関、金融機関の関係者)
44名(31.2%)

■参考■

○「回復度」又は「達成度」とは、震災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。

「進捗状況」とは、直近3ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。

○沿岸北部とは、洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町

沿岸南部とは、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市です。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「あまり回復していない」が36.2%、「回復していない」が14.2%となっており、両者の合計は50.4%であり、前回の56.6%から6.2ポイント下がった。

地域別では、沿岸北部は前回と同じく「やや回復した」(46.8%)の割合が最も高かった。沿岸南部では「あまり回復していない」(41.5%)の割合が最も高く、「回復していない」は前回から18.5ポイント下がり、17.0%となった。

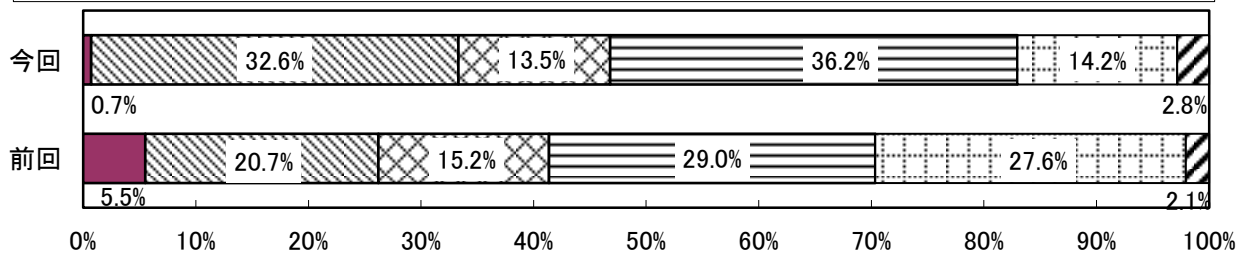
○直近3ヶ月の回復の進捗状況を見ると、前回半数以上だった「あまり進んでいない」又は「進んでいない」の割合が46.1%まで下がった。

回復度や進捗状況を判断した理由については、住環境が整備された、地域の交流が再開されたという回答もあるが、住環境の不備を感じた、地域のコミュニティが崩壊しているという回答も見られた。

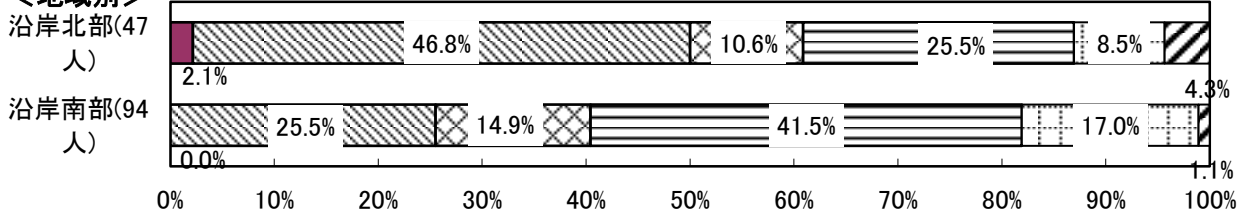
① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は、被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

■1.回復した ■2.やや回復した ■3.どちらとも言えない ■4.あまり回復していない ■5.回復していない ■6.分からない



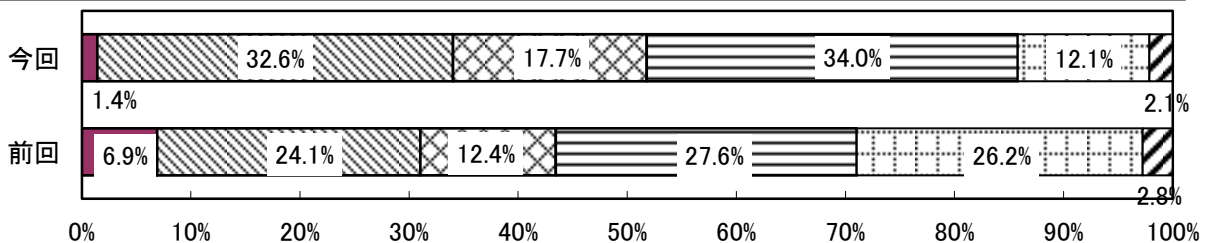
<地域別>



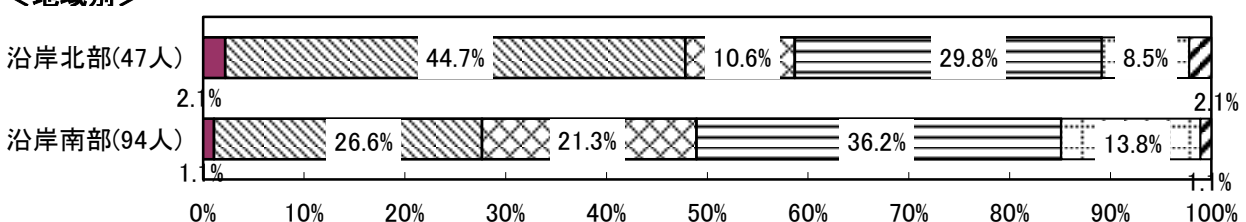
② 3カ月間(概ね3月から5月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(3カ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？

■1.進んでいる ■2.やや進んでいる ■3.どちらとも言えない ■4.あまり進んでいない ■5.進んでいない ■6.分からない



<地域別>



※凡例内の()は、回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被災直後に比べれば、家の修繕をする人や新築する人も見受けられ、また、仮設住宅から自宅へ移り住む人が増えている(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部) ・仮設住宅の住民が以前より物事を自分から進んで活発に動くようになった。協力してみんなで何かをやろうとする意識が高まった(40歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部) ・買物専用のバスが出たり、移動販売の車が来たり、仮設の店舗ができ、地元で買物をする場所ができたことと喜び声を聞くようになった(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部) ・被災した家の建て替えも進み、水田の復旧も100%近く進み、今年度は作付けする(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部) ・共同水産加工場が現在建設されている。完成すれば水産業がさらに活気づくと思う(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部) ・住宅事情はまだまだの感はあるが、仕事の状況や仮設の生活から普段の生活は震災当時の劣悪な状況から脱しつつあると感じる(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定職に就けず転々としている。収入が減り、生活もまだまだ厳しいとの声を聞く。節約、節約の毎日(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部) ・いまだに高台移転の話が進まず、足踏み状態である。仮設住宅での生活は慣れてきてはいるが、やはり住みづらさは感じる(20歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部) ・失業手当を受けていた人が生活が回復し仕事にいくようになる一方で、まだ仕事も出来ない人もいるので、どちらとも言えない(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再建した企業が雇用募集を行っても集まらないと言っており、いろいろ問題はあると思う(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部) ・働く場所があるけれど、アルバイトや臨時職員で将来何年も続けるには不安がある職業かもしれない(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部) ・浜のお母さん達も観光業のパートもなく、がれき処理の日雇いも切れ、仮設住宅の表情は暗い(60歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部) ・期限付や復興関係の土木の仕事、介護の仕事が多く、資格を持たない方、体力の無い方の仕事が少ない状況にあると感じる(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部) ・保護者の失業が解消されていない。一時的雇用があっても長続きしない方もいる(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部) ・PTA授業参観自体は参加してくれるが、懇談会の前に帰る方が多い。子どものことを親同士で話し合う余裕がないのかもしれない(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)
<p>「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職場に関しては、補助・助成と個々の努力で、多少回復したが、緊急雇用に頼る部分も大きく、その先が問題で時間がまだかかる(40歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部) ・特に住環境の再建が遅れている。移転先が確定できず公営住宅も実現が遅れている(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連:仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連 :小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連:漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「あまり回復していない」が30.5%、「回復していない」が12.8%となっており、両者の合計は43.3%で前回の59.3%から16.0ポイント下がった。

地域別では、沿岸北部は「やや回復した」が前回から17.3ポイント増加して40.4%と最も高いのに対し、沿岸南部は「あまり回復していない」(37.2%)の割合が最も高い。

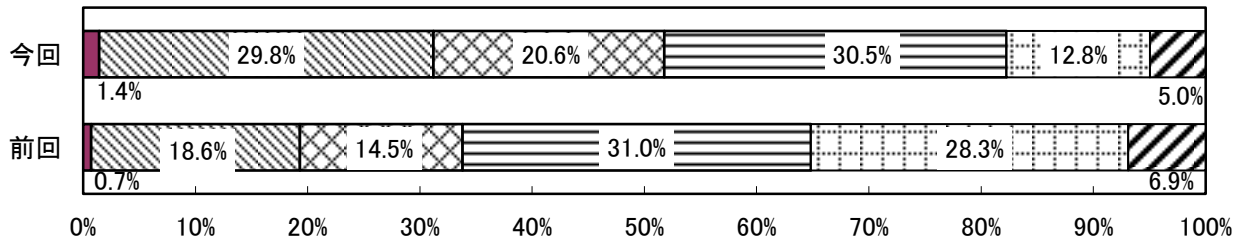
○直近3ヶ月の回復の進捗状況については、「やや進んでいる」の割合が32.6%と最も高く、前回半数以上だった「あまり進んでいない」又は「進んでいない」の割合は53.1%から41.9%に11.2ポイント下がった。

回復度や進捗状況を判断した理由については、水産業等で復興需要や経済波及があるとする回答が多いが、産業種別・地域間の格差や地域企業の経営が依然悪化したままであるという回答も多かった。

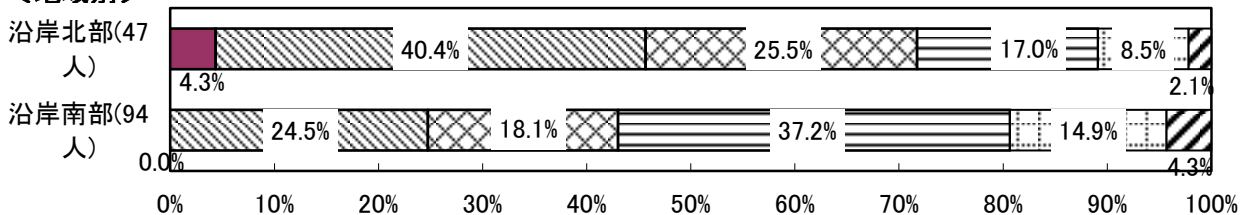
① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、地域経済は、被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

■1.回復した ■2.やや回復した ■3.どちらとも言えない ■4.あまり回復していない ■5.回復していない ■6.分からない



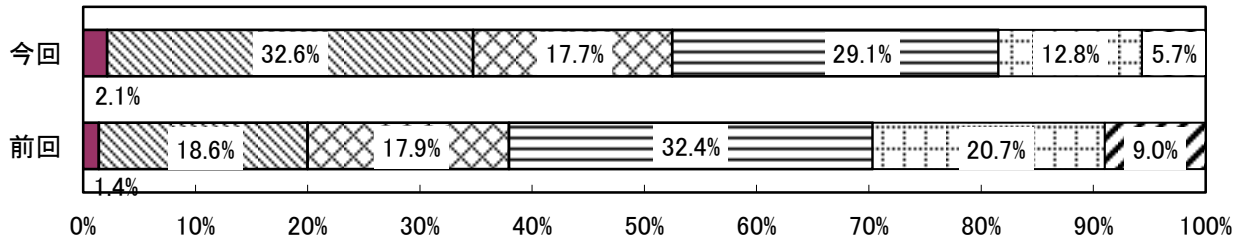
<地域別>



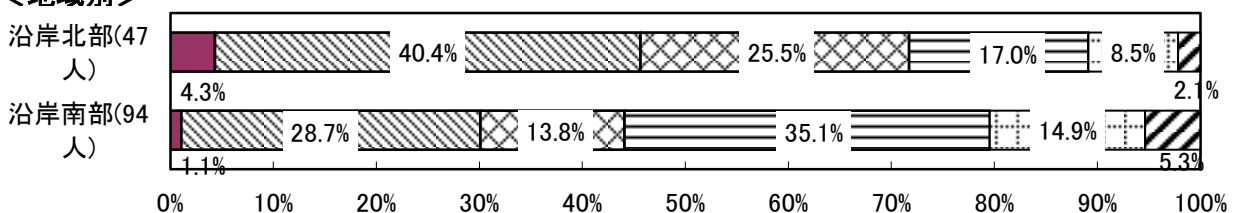
② 3カ月間(概ね3月から5月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(3カ月間程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？

■1.進んでいる ■2.やや進んでいる ■3.どちらとも言えない ■4.あまり進んでいない ■5.進んでいない ■6.分からない



<地域別>



※凡例内の()は、回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	・以前と全く同じではないかもしれないが、以前同様仕事をし、普通に生活ができていると感じます(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	・被災した商店や漁協は、仮設店舗等により営業再開ができている。ワカメ等の漁もとれているので、少し安心しています(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部) ・仮設店舗が少しずつだが増えている。缶詰工場の建設が始まっているので地域経済が動き出しているように思う(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部) ・漁港や関連施設が整備されてきた。通勤途中、整備された船が陸に置かれているのを見かけるようになった(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部) 一部の小売業、サービス業は、復興特需の業種になっているように感じる。本来地元根付くべき産業の回復状況がわからない(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部) 小型船の配備、漁業者用倉庫の建築が進み、磯漁は可能だが、大型船の配備は全く見られず、家計を支える収入には程遠い(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)
「3.どちらとも言えない」 の理由	・業種によって進捗状況が異なっている(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部) ・水産加工製造業の事業所再建が進んでいない。仮設商店街ができているが公共機関のみ利用者は不便(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部) ・震災で廃業する会社が多いが、地元企業で募集する人材はほとんどが非正規社員なので、企業側も経済の回復はまだだと思う(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	・仮設店舗、水産加工場、事務所は建設が進み、地域経済は回復にむかっていると感ぜず(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部) ・農林水産業は、少しずつ元に戻ろうと頑張っているが、水産加工場が廃業している所もあり、まだ回復まで至っていないと感じる(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部) ・海を去る漁業も多く、残る高齢者は負担も重くなり、元気を出そうにも大変だと感じている人が多いと思います(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸北部) ・漁船は少ないがなんとか共同で作業し復興へ向けて頑張っているが、震災前の1/4以下の収入では回復している実感がない(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部) ・機械をすべて流され、農業で生活を支える事が出来なくなり、金銭的に一からスタートするのは難しい。地域経済の回復には程遠い(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	・再開したのはスーパーや商店の小売業のみで、第1次産業はいまだに進んでいない(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部) ・もともとが地域経済が弱いところに震災の被害があったため、地域経済の復旧には時間がかかる(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)
「6.わからない」	・スーパーや工場ができているので少しは良くなってきているとは思いますが、地域経済が回復しているかはわかりません(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連:仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者
教育・福祉施設関連:小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者
産業・経済・雇用関連:漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「あまり達成していない」が25.5%、「達成していない」が56.0%となっており、両者の合計は81.5%で前回の80.0%から1.5ポイント上がった。

地域別では、沿岸北部、沿岸南部とも、前回に引き続き「達成していない」の割合が最も高い（沿岸北部31.9%、沿岸南部68.1%）。

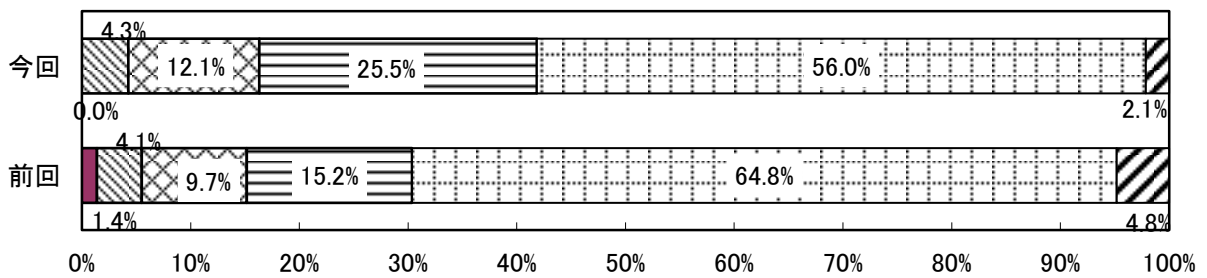
○直近3ヶ月の進捗状況についても、「進んでいない」の割合が47.5%と最も高かった。

達成度や進捗状況を判断した理由については、がれきが少しずつ減っているとの回答もあるが、復興計画の遅れや防潮堤等ハード整備が進んでいないことへの不安に関する回答が多かった。

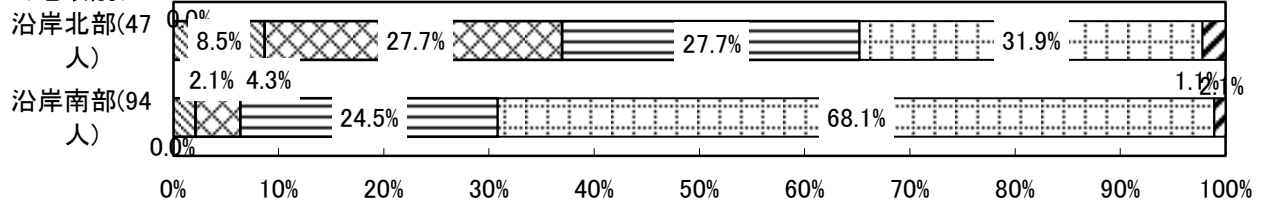
① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】あなたの周辺をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

■1.達成した ■2.やや達成した ■3.どちらとも言えない ■4.あまり達成していない ■5.達成していない ■6.分からない



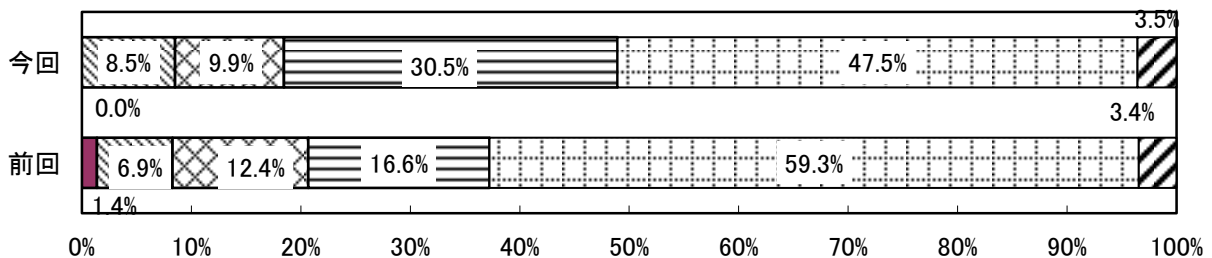
<地域別>



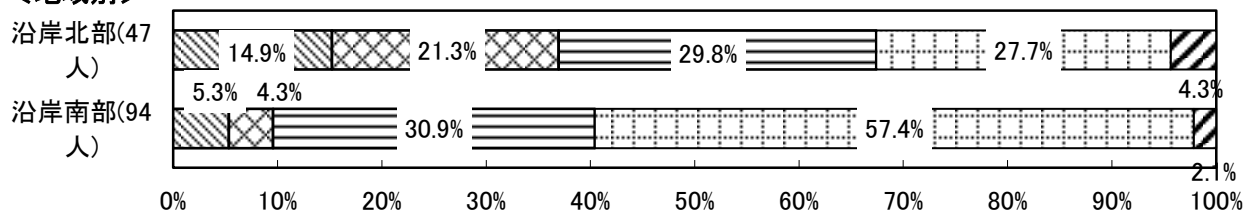
② 3カ月間(概ね3月から5月)の進捗状況

【設問】あなたの周辺をご覧になって、最近の(3ヶ月間程度)災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？

■1.進んでいる ■2.やや進んでいる ■3.どちらとも言えない ■4.あまり進んでいない ■5.進んでいない ■6.分からない



<地域別>



※凡例内の()は、回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップの配布等により避難区域が明確になったものと思われる(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部) ・震災の教訓を生かし、地震で津波注意報が出たら、すみやかに周りが避難する人が多い(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガレキの撤去は進んでいる様に感じられる。道路も以前より走りやすくなった。堤防の補修も進んできている(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部) ・防災訓練ってやっているのだろうか。自分の住んでいる地域で、津波が来たらどこに逃げれば良いのかがわからない。ただ高台を目指せば良いのか(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸沿いの道路を通るだけでも、何の安全策もされていなくビクビクしながら通っています(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部) ・大雨の時に、TVが映らない、下水道が機能しない、冠水して道路が通れない等、まだインフラの面で整備が進んでいない(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部) ・計画はあるようだが、どの程度進んでいるのか進捗状況がわからない(30歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部) ・防潮堤が前のように整備されていないので、漁師が作業出る時、海難事故、海におちたり非常に危険な状況(60歳以上 産業・経済・雇用関連 沿岸南部) ・被災した土地をどうするのか、防潮堤、線路、道路を上げるのか、又は前の場所に高い防潮堤を作るのか決まっていない(20歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)
<p>「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高台移転も国、県、市の立場の違い、担当分野の線引が強く、はみ出ない気遣いからギクシャクして積極的な指導が少ない(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部) ・環境未来都市に指定されたものの、動きが見られない。復興計画との関連性も不明で、市民はあまり期待していない(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部) ・復興計画が発表になっていないので進捗状況はあまり進んでいないと思われます(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部) ・都市計画が示され、住民説明会等も行われているが、具体的に実行されていくのはこれからである(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部) ・防潮堤の修理も進んでおらず、第二堤防の話もあるが、位置とかもまだ決っていない(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部) ・防潮堤等の計画はあるようだが、具体的には全く見えず、特に県が担当する防潮堤は予定地の用地交渉すらされていない(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部) ・次に津波が来た場合は防潮堤もない現状では被害は免れないと毎日不安を感じながら生活している(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部) ・動きが遅い。何をやるにも規制が多すぎて行政等の動きが遅々と進まない。大胆な規制緩和が必要と思われる(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)

注1「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2 回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3 掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連: 漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

平成24年【第2回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告書
(平成24年6月)

発行

平成24年6月21日
岩手県 復興局 企画課

〒020-8570
岩手県盛岡市内丸10-1
電話 (019)-629-6945
ホームページ：いわて復興ネット
http://www.pref.iwate.jp/~hp0212/fukkou_net/index.html